

市指定重要文化財<無形民俗>

あかほしてんまんぐうかぐら
赤星天満宮神楽

指定日 平成2年9月1日

所在地 菊池市赤星



赤星天満宮神楽は江戸中期に始まるといわれるが、定かではない。『神楽由来記』によると現在の神楽は明治になって七城町清水より伝授され復興したことが記されている。その後も数回断絶している。

昭和62年、地区民に神楽復興の機運が高まり、区民協議により復興を決定し、区民の寄付等で神楽用狩衣や刀などが用意された。神楽が行われる日には関係者が集まり、大祓の儀が行われたのち、桺舞、花米、弓舞と続き、歌舞では舞い手と全員による掛合い歌が入り小休止。その後、弓御幣舞、剣四人舞、二剣、最後に納め太鼓が鳴り渡り、舞い人全員で神前に礼拝して終わる。

神楽の構成、舞い方には年の推移とともに多少の変遷がみられるが、神殿裏の倉庫に素朴な木彫り面があることから、古くは面を付けた舞があったと推察される。年間4回天満宮の祭日などに奉納されている。近年は地域の子供たちによる子ども神楽もおこなわれている。